導入検討プラン 16 / 次の価値を探る

異なる専門を、利用者の価値へ結ぶ

技術・営業・企画の共同開発

共創や対話を支える取り組みがあり、具体的な顧客案件で専門性を組み合わせるとき。利用者の使い方を材料に、まだ満たされていない必要を探ります。

> 目指す仕事の状態
>
> 各部門が同じ利用事実から提供価値の候補を考え、試作への反応を基に、提供する内容と担う役割を更新できる。

当社が担う仕事

01 同じ事実を持ち寄る

技術・営業・企画が利用者の使い方を確かめ、観察した事実と、自部門の想定を分けて共有します。

02 専門性を提供案へ結ぶ

誰のどの場面に役立つかを軸に案を比較し、各専門が担う部分と、利用者に確かめる形を決めます。

03 実際の利用から選ぶ

試作を選ぶ・使う・使わない反応を見て、採用・変更・見送りの理由と次の役割を整理します。

最初に試す一件

検討中の一案件で、各部門が同じ利用場面を確認し、紙の見本や仕事の一部分など、確かめられる案を試します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 誰のどの使用場面を、各部門が共に見ていますか。
- 提案する側の想定と、利用者の目的はどこで違いますか。
- 試作を使う相手と、次の判断をする人は決まっていますか。

社内に残すもの

- 利用の事実と部門ごとの見立ての整理
- 専門性を組み合わせた提供案と試作計画
- 採用・変更・見送りの理由と次の役割

実践後に確かめること

- 利用者が実際に選び、使ったこと
- 試行を受けて変わった価値の案
- 採用・見送りの理由と提供側の負担

一緒に進める人と役割

技術・営業・企画	同じ利用場面を確かめ、専門性を用いて提供案をつくります。
利用者への接点 意思決定者	試す機会、専門評価の範囲、次の判断を整えます。
当社	観察の問い、案の比較、試行からの見直しを設計し、協働を支えます。

実施条件と、役割の範囲

利用者に試してもらう機会と、技術・営業・企画が同じ結果を見て判断する時間を設けます。専門的な製作・技術評価は担当部門が担います。支払意思と採算は、事業化の判断に必要な段階で別途検証します。

支援を組み立てる根拠

対話と観察から相手への見立てを確かめ直す知見を用います。個別の技術統合と事業化の条件は、各専門部門と確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る